

大震災・復興ニュース(第14報)

平成23年7月22日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

被災漁船登録抹消手続きの進捗状況

- 管内の登録漁船2,875隻中、現在1,149隻(40%)の抹消手続きが終了。

管理漁港及び漁場の啓開(けいかい)作業状況

- 県管理漁港の航路・泊地内の漁具や沈没した船舶・自動車等支障物の撤去作業はすべて作業終了。
- 漁場の啓開作業は、5月23日から松島湾で着手し、潮位の関係から七ヶ浜沖と並行して2台の起重機船で引き続き作業を行っている。

バックホウ台船は、6月14日から松島湾の東名地区で引き続き作業を行っている。

また、仙台湾漁場では、6月28日から起重機船にて支障物撤去作業を行っている。

水陸両用バックホウについては、松島湾内の撤去作業を終了し、鳥の海での撤去作業に向けて7月21日から組み立て開始。

漁港の応急復旧状況

- 荒浜漁港の海岸堤防の応急工事については、阿武隈川河口から南側約900m区間の1次応急工事作業は完了しているが、南側から工事用道路を500m、海側へ並行する仮堤防を300m(高さ4m)で施工した。引き続き本格的な台風シーズン前の完成を目指し作業中である。
- 荒浜漁港南導流堤基部の決壊箇所の閉塞工事については、現在、吉田排水機場から北側に仮設道路工事を施工中で全体約500m区間を施工中であるが、土のう(1tパック)積が2段まで終了し、工事用道路の嵩上げを施工している。

災害査定の実施状況

- 一次査定が7月19日から始まり22日で終わりました。
- 申請箇所は、塩釜漁港で6箇所、桂島漁港で2箇所、計8箇所です。



塩釜魚市場前岸壁の災害査定



桂島沖合防波堤の災害査定

<トピックス>

今漁期の養殖見通し

種ガキについては、原盤の投入は鳴瀬地区では7月12日から始まり順次松島・浦戸などでも投入が行われた。主体の鳴瀬では10万連のうち6割が、松島は2万連のうち3割程度が、他地区でも自家消費分の5～6割程度の投入となっている。未投入の原盤については今週末から来週にかけて行われる予定である。

19日の付着状況調査結果、松島湾では原盤1枚当たり約40個の付着が確認された。また、鳴瀬の聞き取りでは100個以上の厚付きとなっている。

種ガキの付着が良好なことから関係者は安堵している。



宮戸西部での種ガキ用原盤準備作業

カキ生産については、鳴瀬・宮戸西部・松島・浦戸・浦戸東支所、塩釜市漁協で操業予定で準備を進めており、生産量は例年の1～3割程度の生産見込みとなっている。

ノリについては、宮戸・宮戸西部・浦戸・七ヶ浜で協業等による操業を準備中で、このうち宮戸では400台、浦戸では800台のノリ筏を制作中である。

ワカメについては、矢本・宮戸・浦戸東支所、塩釜第一支所、塩釜市漁協で操業に向けて準備中である。出荷形態は生を中心に一部で塩蔵出荷も検討中である。

塩釜市魚市場の水揚状況

塩釜市魚市場の6月期水揚は、5月に引き続き沖合底曳網船やまぐる延縄船を中心に、数量で2,158トン、金額で753,917千円となり、前年同期比数量で667トン、金額で16,125千円の増となった。

漁業種類は沖合底曳網、まぐる延縄、かつお・まぐる旋網、大目流し網であり、数量・金額ともにこれまで石巻に入港していた沖合底曳網が最も多くなっている。

(数量：1,024トン、金額：219,403千円)

待望のかつお一本釣り漁船については、7月18から19日にかけて合計5隻入港した。

(数量：163.5トン、金額：30,531千円)

塩釜市魚市場水揚状況				(ト,千円)		
月	平成23年		平成22年		対比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
1	1,405	653,198	822	395,109	171%	165%
2	916	439,655	1,281	575,277	72%	76%
3	246	153,638	1,147	576,893	21%	27%
4	221	168,510	629	423,588	35%	40%
5	2,172	709,689	2,222	1,016,680	98%	70%
6	2,158	753,917	1,491	737,792	145%	102%
累計	7,118	2,878,607	7,592	3,725,339	94%	77%

ボランティアによるカキ処理場の清掃

県内はじめ首都圏や関西から来たボランティア50名が先日、2日間の日程で松島町磯崎地区のカキ処理場の清掃を行った。カキは松島では10月中旬から出荷予定とのこと。



(河北新報記事より抜粋)

宮城県震災復興計画（案）県民説明会開催

「宮城県震災復興計画（案）」について、7月16日（土）10時から名取市商工会館を会場に県民説明会が開催された。

会議には200人ほどの県民が参加し、災害復旧方法や原発関連の意見の他、水産関連では瓦礫の撤去・漁船取得への支援や、漁業者の力で早期に復興を進めるように促す意見等が出た。



説明会の様子

災害復旧応援職員の紹介

漁港の災害復旧の応援のため大分県から天野真基（あまのまさき）さんが当部に参りました。

「大分県から災害支援に来ました天野です。実は先月、東部地方振興事務所に1ヶ月間派遣としていました。その時に目にした凄惨な光景は、一生忘れられないものとなりました。しかし、それ以上に宮城県の人々の復興に向けてのエネルギーを感じ、元気を貰った気がします。多くの人達が被害にあった今回の大災害、元の生活をするための一助になればと思い、精一杯頑張りたいと思います。」



天野真基さん